

領域	問 題 の ね ら い	平 均 正 答 率		
		34年度	43年度	47年度
④ 量と測定	1. 単位相互関係の理解。	53.9	57.3	23.9
	2. 長方形、正方形の面積を求める。	15.0	47.8	51.2
	3. 角の大きさの単位の理解。	55.0	61.8	67.2

(3) 高学年について

① 5年の場合

領域	問 題 の ね ら い	平 均 正 答 率		
		35年度	42年度	47年度
① 数の と意 味 計 算	1. 分数の大小、相等を比べることの理解。	65.3	62.1	62.9
	2. 小数の四則計算を適用した問題を解く。	49.5	57.9	62.2
	3. 分数の四則計算を適用した問題を解く。	36.0	49.9	25.8
② 計 算	1. 小数の乗法、除法の計算。	55.0	80.3	66.0
	2. 異分母の加法、減法の計算。	59.5	66.9	56.0
③ 量 測 と 定	1. 三角形の面積を求める。	42.0	65.2	43.8
	2. 速さの表わし方の理解。	35.0	78.7	28.3
④ 数 関 係 量 係	1. 平均の意味と計算。	45.0	68.5	41.2
	2. 度数分布を表わす表や図の理解。	24.0	61.4	73.2

② 6年の場合

資料不足のため比較対象外とする。

5 基礎学力の変動の分析

領域ごとの平均正答率によって、基礎学力の変動を概観し、その変動が偶然変動なのか、意味のある変動（学力の向上あるいは低下を意味する）なのかを平均正答率の年度間比較におけるdataの分散分析によって分析する。

(1) 低学年についての分析

① 1年の場合

領 域	平 均 正 答 率		
	37年度	42年度	47年度
数と計算の意味	66.7	78.1	79.4
量と測定	87.0	91.2	84.9
計 算	78.0	90.5	87.1
以上の総合	77.2	86.6	83.8

次に、年度を水準とした分散分析表を示す。

水準が37, 42年度するとき

要 因	平方和	自由度	不偏分散	分散比
水準間	442.04	1	442.04	2.986
誤 差	2368.86	16	148.05	
全 体	2810.90	17	有意差なし。	

水準が42, 47年度するとき

要 因	平方和	自由度	不偏分散	分散比
水準間	8.41	1	8.41	0.109
誤 差	1234.11	16	77.13	
全 体	1242.52	17	有意差なし。	